

平成 21 年 4 月 9 日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2006～2009

課題番号：18520118

研究課題名（和文） 米国大学図書館における日本語蔵書史の調査、及びその情報の利用、共有化についての研究

研究課題名（英文） The Study on the History of Japanese Book Collections at the Research Libraries in the United States, and the Study on the Effective Uses of These Collections' information.

研究代表者 和田 敦彦(WADA, Atsuhiko)

早稲田大学・教育・総合科学学術院・教授

研究者番号：90283225

研究分野：文学・日本文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学(細目番号 2901)

キーワード：出版/蔵書史/日米関係/読書論

## 1. 研究計画の概要

本研究は、米国内における日本語蔵書の形成、及びその変化について歴史的に解明することを目的とする。また、それとあわせて、蔵書形成、変化の歴史を明らかにする資料の収集、整備、保存と公開、共有を促進する。

## 2. 研究の進捗状況

本研究、調査活動は順調に成果をあげ、その公開を進めている。米国内の日本語蔵書の形成、変化については、広範な資料収集をすすめ、その成果をすでに著書として刊行した。これによって米国内の日本語蔵書の構築が通史的に明らかになり、その調査、研究の意義、成果が広く知られることとなった。それにともない、歴史学、文学、図書館学といった多様な分野の研究者との連携、交流が始まり、それら研究者との連携や関係学会での報告を行っている。そしてその成果をさらに論文として積極的に公開をすすめてきた。

米国内での更なる調査も進め、日米間の書籍交流史に大きな役割を果たしたタトル出版の史料をはじめ、多くの史料を追加収集している。同時に、米国へと日本語図書を送り出した側、すなわち日本国内における学術機関や出版社、取次についての資料収集も並行して進めており、それらを新たな著書にまとめるべく整理を行っている状況である。

こうした書籍の流通や蔵書史から読み、書く能力の歴史を問う領域として、新たに「リテラシー史」という領域を掲げ、研究会の開催、会誌の発行を行ってきており、日米間のみならず、国内の書籍流通や読書研究といった広がりをもった活動へと研究を展開し、本研究を維持、発展させるための場を積極的に

構築してきている。

あわせて、海外における未整理の日本語蔵書の目録化や、蔵書史にかかわる資料目録など、各種目録データの作成や公開にも協力し、成果をあげている。

## 3. 現在までの達成度

おおむね順調に進展している

研究の目標は極めて順調に達成されつつある。本研究は、これまでほとんど研究がなされてこなかった領域であり、調査を進めるばかりではなく、その意義や成果を広く訴えかけてゆく必要がある。積極的に成果の公開に努めた結果、様々な分野から研究報告や論文の依頼を受け、これらの活動を通して、研究成果や目的を広く発信することが可能となったことが研究を進める大きな力となっていった。

## 4. 今後の研究の推進方策

今回の研究は、すでに一冊の書物にまとめられてはいるが、まだ公開してゆきたい資料や事象が多々ある。

特に、米国における日本語蔵書史は、同時に、書物の国際流通史、戦争や経済的な事象の中での歴史的な運動として展開してきたことが明らかになってきた。

こうした角度から、もう一冊の著書として成果をまとめるべく、収集した資料の整理、公開を進めていく必要がある。

## 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計5件)

- 1.和田敦彦「日米関係史の中の図書館」(「環」15号、pp.204-209、2008年11月) 査読無
- 2.和田敦彦「プランゲ文庫をめぐるアメリカ図書館の争奪戦」(「インテリジェンス」10号、pp.4-11、2008年8月) 査読無
- 3.和田敦彦「植民地の「舞踏会」 戦時期の芥川翻訳プロジェクトに関して」  
「国文学」53巻3号、pp.116-124、2008年2月) 査読無
- 4.和田敦彦「発信される日本 KBS文書のリテラシー史的意味」(「リテラシー史研究」1号、pp.33-46、2008年1月) 査読無
- 5.和田敦彦「流通・所蔵情報をとらえる文学研究へ 米議会図書館所蔵の占領期被接收文献について」(「日本文学」57巻1号、pp.56-67、2008年1月) 査読有

〔学会発表〕(計6件)

- 1.和田敦彦「リテラシー史料の保存・調査を生かす教育・研究プログラム」(改造研究会改造社を中心とする20世紀日本のジャーナリズムと知的言説をめぐる総合的研究 第10回研究集会、2009年2月11、於慶応大学)

- 2.和田敦彦「書物という架け橋 角田柳作と早稲田大学図書館」(第10回図書館総合展、2008年11月26日、於パシフィコ横浜)
- 3.和田敦彦「明治期書店史料へのアプローチ 高美書店のケースから」(日本出版学会歴史部会、2008年10月3日、於日本エディタースクール)
- 4.和田敦彦「アメリカの日本語蔵書史から見えるもの 日本の書物をめぐる人・組織・制度」(経済資料協議会 2008年6月3日、於早稲田大学)
5. Atsuhiko Wada, Understanding the Histories of Book Collections: Its Method, Significance, and Potential. (NCC, The North American Coordinating Council on Japanese Library Resources, Apr. 2008.)
6. 和田敦彦「アメリカにおける日本学の形成と角田柳作」(シンポジウム角田柳作、2007年10月30日、於早稲田大学)

〔図書〕(計1件)

1. 和田敦彦『書物の日米関係 リテラシー史に向けて』(新曜社、405頁、2007年2月)